

ロシア一般人向け日本語コース用 初級コースブック『どうぞよろしく I』開発報告

イリーナ・プーリク、リュドミラ・ミロノワ、山口紀子

〔キーワード〕 ロシアにおける日本語教育、一般人用コース、教材開発

〔要 旨〕

本稿ではロシア・ノボシビルスク市立「シベリア・北海道文化センター」(以下 SHC) における初級日本語コースのシラバス開発及びコースブック『どうぞよろしく I』開発について報告する。近年のロシアにおける日本語学習の目的はよりコミュニケーション重視の方向へと変化しており、対応する教材の開発が急がれている。SHC ではコース受講生のニーズ調査を行い、ロシアで初めて日本語コースに言語活動能力を育てる Can-do シラバスを取り入れた。1 年間のコース実施を経てシラバスの改善を行い、2011年にコースブックの開発に着手。ガニエの9教授事象モデルを参照し、言語運用能力・自律学習能力が身につく構成に配慮した。また各課に日本事情をふんだんに取り入れ、日本語を学ぶと同時に日本についても学べる内容となっている。教材開発と並行してロシア各地で教師セミナー・模擬授業を行い、その反応と評価を反映し、現在出版に向けて準備を進めている。

1. はじめに

この20年にわたって、ロシアにおける日本語教育は変化してきた。世界のグローバル化に伴い、ロシアの社会も変化しつつある。外国語教育に対する現代ロシアの社会的な要求も変わってきた。言語理論及び翻訳分野で使う知識の代わりに、実際のコミュニケーションで応用できる実用的な知識の必要性が高まってきた。またロシア社会の改革とインターネットの普及に伴って、日本語学習者は急激に増加し、彼らの学習目的も多様化してきた。以前は、大学の東洋学科や言語学科の日本語コース(エリート教育)では、「日本語専門家」、いわゆる一流翻訳者・通訳者を目指したが、現在、様々な夜間コースが開講され、日本に興味を持って日本人と交流したい人、ビジネスパートナーと簡単な会話をしたいビジネスマン、異文化と触れ合いたい高校生たちも日本語を学ぶ機会を得られるようになった。一般人向け講座は、民間語学学校の割合より、文化センター、大学付属夜間日本語講座が多い。

ノボシビルスク市立「シベリア・北海道文化センター」(以下、SHC)の日本語講座はその一つである。一般市民向けのSHC日本語コースは1996年に開講し、日本及び日本文化に興味を持つ高校生、大学生、社会人が学んでいる。2010年、SHCが学習者のニーズ及び日本語使用特徴の調査を行った結果、外国語の実用的な側面を重視する学習者の傾向が明らかになり、

コースデザインの改善を迫られることとなった。これにより SHC はロシアで初めて、日本語コースに言語活動能力を育てるシラバスを取り入れた。本稿に述べる『どうぞよろしく I』コースブックは、日本語コースの改善の第二段階として開発された。本稿で言う『コースブック』は、来嶋 (2012) にしたがって、「日本語コースで教える内容と方法を教材化して、教える順に表したもの」である。

2. ロシアで使われている日本語教科書の問題点

1990年代のロシアには V.Golovnin 著『日本語』という教科書しかなかったが、最近は、ロシア人が書いた教科書も増え、また日本で出版された教材を使うことも多い。選択肢が増えれば、教師は最も適切な教科書を選べるはずだが、実際には、教科書に問題を感じている教師が多くいる。一般的にロシアの日本語講座では、教師はまず教科書を選び、コースデザインと学習目標を「その教科書を教えること」としている。多くの場合、コースデザインは選ばれた主教材により構成されている。

報告者らは、2011～2012年にシベリアの各地⁽¹⁾で行った日本語教育セミナーで、参加した教師たちと日本語コースブックについて意見交換を行い、その問題点を調べた。

ロシアにおける一般人向けの日本語講座及び第2外国語としての日本語教育に使われるコースブックは2種類に分けられる。

1つはロシアで出版された教科書 (筆者はロシア人、校正者は日本人) である。多くの場合、その教科書は文型学習・翻訳を中心とし、専攻科目としての日本語学習に向いている。文法の説明が丁寧に書かれているが、コミュニケーション能力を育てる応用練習や教室以外での日本語使用への刺激が少ない。したがって、授業数の少ないコースの場合、教科書を全部教える時間も充分でなく、学習者は文法を知っていてもなかなか話せないという状況も見られる。また、各課の目的は「文型」を身に付けることであり、学習者にとって、どんな場面で、どんな相手に対して使えばいいか、想像はなかなか難しく、言語学習中の達成感が感じられていないようである。

もう1つは日本で出版された教科書 (筆者は日本人) である。多くの場合、その教科書は、外国人の日本留学や、日本国内の場面・会話が中心となっている。そのため、ロシア在住で日本へ行く機会が少ない学習者には不適合な場面が多い。また、教科書の内容には、教育機関のシラバスと学習者のニーズに合わない項目が多い。さらに、ロシアの教師にとって、授業の構成が分かりにくいという意見も出てきている。教師は自分が慣れた教授法⁽²⁾にしたがって教えることが多いため、日本で主流のコミュニケーション教材は教えるににくいと考えられている。その他、送料や関税等の問題で必要な冊数を買うことが不可能であるという問題もある。

以上の問題を意識し、報告者らは、ロシア一般人向け日本語コースの改善を考え、改善の一

つの段階として、コースブック『どうぞよろしく I』を開発した。

3. 新しい教科書開発にあたってのコース実践

2010年に SHC 日本語コースの改善を考え、学習者のニーズ調査、シラバス開発を行った。2011年から、1年生用に新しく開発した Can-do シラバスを実施し、2年生以上は Can-do シラバスがまだ開発途中であるため、文型シラバスで教えている。以下は、1) 改善されたコースの概要と流れ、2) 新しいシラバス、3) 授業の実践、4) コース終了後に行った評価から考えたコースブックの特徴について述べる。

3.1 コースの流れ

SHC 日本語コースの概要は表1の通りである。

表1 SHC の日本語コースの概要

①コースの目的	1) 日本語でのコミュニケーション能力を身に付ける 2) 日本への理解を深める 3) 自己成長及び地域社会に貢献する人材を育てる
②コースの実施期間	3年間／秋学期9月～12月、春学期2月～5月
③授業時間数	約300時間／1年間の時間数は96時間
④学習者	・280人（2011年9月開講時）、うち1年生は177人 ・内訳は、中学生、高校生、大学生、社会人 ・1クラス15名前後

1年生の9つのグループは6名のロシア人の教師が担当し、各課ごとに授業計画作成→実施→評価→授業内容の見直しと改善、という流れで Can-do シラバスに沿って授業を行った。具体的には新シラバスの Can-do にあわせたモデル会話、練習、教室活動を考え、教師チームで教案を作成した。その教案に沿って授業を実施した後、教師のフィードバック、学習者の反応、シラバスの問題点に関する教師の話し合いを行い、その都度教案と自作教材を修正した。A1とA2.1の各レベルのシラバスの学習を修了した際、筆記テストと口頭テストを行い、学習目標が達成されているかどうか、また、学習者と教師のアンケートにより、コースの成果と問題点を明らかにした。（詳しくは、プーリク（2011）参照。）各授業の教案と自作教材は『どうぞよろしく I』のベースとなった。

3.2 SHC の新しいシラバス (Can-do シラバス)

2010年に公開された「JF 日本語教育スタンダード」（以下、JF スタンダード）は、欧州評議会による「言語のためのヨーロッパ共通参照枠」（以下、CEFR）の言語教育政策の考え方に大きな示唆を受け、「相互理解のための日本語」の教育を提唱している。JF スタンダードにお

ける Can-do は、言語の熟達度を「～ができる」形式で示す文として定義されている（国際交流基金2010）。Can-do は大きく言語活動 Can-do、言語能力 Can-do、テキスト Can-do、方略 Can-do の4種類に分類される。

2010年、SHC では日本語コースに言語活動 Can-do を柱としたシラバス（以下、Can-do シラバス）を取り入れた。（シラバス開発については、プーリク（2010）を参照。）開発されたシラバスを Can-do シラバスにした理由は以下の通りである。まず、学習者と教師にとって目標とする授業ごとのゴールが明確化され、達成度も透明になる。また、言語活動 Can-do を通して、実際に使えることを習いたいという学習者のニーズに対応できる。さらには、ロシアにおける他の外国語教育では、すでに CEFR の概念が取り入られている。大学の卒業生のヨーロッパ高等教育機関への進学や、各分野の専門家の国際的共同プロジェクトへの参加を目指し、ロシア中等・高等教育機関における外国語コース（英語、ドイツ語、フランス語）にはすでに CEFR に基づいた教育が取り入られており、Can-do ステートメントの教科書が使用されている。国家統一試験（高校卒業・大学入学試験）に入っている外国語試験も、評価基準を CEFR に基づき定めている。加えて教育省の通達によれば、ヨーロッパ言語のみならず外国語教育全てが CEFR 基準に基づいて行われるよう推奨されている。そのためロシアにおける日本語教育も、CEFR 及び JF スタンドラードと新日本語能力試験に応じるように見直し、教室で習った日本語を实际コミュニケーションの場で適切に使えるような日本語教育が望ましくなった。シラバスの概要は表2の通りである。

表2 1年生のシラバス（技能別）

	受容		産出		やりとり		仲介	合計
	読む	聞く	話す	書く	口頭のやりとり	文字でのやりとり		
A1	0	1	0	1	6	4	0	12
A2.1	6	2	5	2	13	9	1	38

* 表中の数字は目標とする Can-do の数

シラバスに含まれている Can-do の例：

「単純な言葉を使い、時々、電子辞書をみながら、相手にメールで、自分の町の写真の簡単な説明をひらがなとカタカナで書く。」（A1）

「交流事業で、日本人の知り合いにあげたロシアの民芸品やノボシビルスクの名物について、学習した表現を使って、ゆっくりと、簡単に説明ができる。」（A2.1）

シラバスでは、言語活動 Can-do ごとに文型、語彙、日本事情の項目が決められ、Can-do

達成に役に立つ方略も示されている。

3.3 授業の設計と指導法のポイント

2010～2011年に、新シラバスを実施し、シラバスの成果と問題点、日本語コースの新しいアプローチに対する学習者と教師の反応を明らかにした。そのコースの実践について以下にまとめた。

言語活動 Can-do を目標とした授業の場合、どのようにデザインをすれば効果的であるか、教師にとって大きな課題である。SHC の教師には、導入→基本練習→応用練習という流れだけで十分目標を達成できるのか、という不安があった。従来の授業を振りかえり、Can-do の内容と Can-do につながる実際のコミュニケーション、学習者が日本語を使っている場面を踏まえ、以下の流れを基本にして、Can-do 授業を実施した。

表3 Can-do を目標とした授業の流れ

授業の段階	段階の内容	指導法のポイント
背景知識の活性化	授業の内容に関する学習者の背景知識を生かし、興味を高める。	実際に多くの場合、日本事情を取り入れた。学習者は日本とロシアの比較を通して、日本文化の理解を深める機会を得た。
授業の Can-do	学習者に授業の目的 (Can-do) を知らせる。	ロシア語で行った。目標を明確にすることは従来の授業との大きな違いである。
導入	学習者にモデル会話を聞かせる／モデルテキストを読ませる。	モデル会話の作成にあたっては、以下を参考にした。 ・市販の日本語会話教材 ・交流事業で録音した実際の会話 ・日本人の協力者が書いた作文 多くの場合、コースブックがなかったため、実際に録音した会話を教材化して使った。
文型の説明	文型を説明する。会話の意味を確認する。	ロシア語で行った。会話を翻訳した場合もあった。
練習	基本練習をさせる。	文型と語彙を覚えさせるために、市販教材の基本練習のテキストを利用した場合もあった。
Can-do 活動	目標としている Can-do を実際にやらせる。	実際のコミュニケーションに近い場面、相手、形式を考え、言語活動をやらせた。ペア／グループ活動も取り入れた。
評価	Can-do を達成したか。言語項目を取得したか。	評価シートを使い、学習者の会話を録画し、自己評価／学習者同士の評価を行った。A1 学習終了時、筆記テスト、口頭テストを行った。

4. 初級日本語コースブック『どうぞよろしくⅠ』の開発

コースブック開発は、1) シラバスの見直し、2) コースブックの構成開発とストーリーの作成、3) ガニェ理論に基づいた課の構成検討、4) 各課の記述、5) 校正と編集作業、という流れで行った。

表4 コースブック『どうぞよろしく』の概要

対象者	・日本に興味を持っていて、趣味として日本語を勉強している学習者（高校生、大学生、一般人） ・日本語で口頭および文字でのコミュニケーションをしたい人
レベル	JF 日本語教育スタンダード A1－A2.1
学習目標	言語活動 Can-do
学習時間	約100時間
構成	全20課 ＋ 「交流会を開きましょう」 まとめ活動
課の構成	ガニエ理論に基づく。
ストーリー	開発チームの自作ストーリー。ロシア滞在の学習者に身近な場面と登場人物（日本から来た先生、ロシア人の学習者、日本人留学生、日本で仕事をしている・留学している先輩など）
聴解資料	モデル会話、聴解練習が録音されている DVD がある。
イラスト	札幌市立大学デザイン学部の卒業生のイラストレーターによるオリジナルイラスト、筆者の写真などを載せた。

4.1 コースブック開発に当たってのシラバスの見直し

Can-do コースの終了に行った評価の成果と問題点をふまえ、コースブックの基本となるシラバスを見直す必要があった。以下に、どのように見直したか、述べる。

① Can-do の数の確認

まず、シラバスの Can-do を全て習得するために、96時間（1年生の時間数）では少ないことが明らかになった。しかし、SHC のようなロシアの一般成人向けコースの場合、9月から5月にかけて、週4時間で、学年96時間程度のところが多い。

さらに、ひらがな・カタカナの学習時間、テスト時間、まとめ授業の時間を考えると、Can-do 授業の時間がもっと少なくなる。したがって、96時間で学べるコースブックを考え、SHC の教師と学習者の意見を聞き「学習者が実際に遭遇する日本語使用場面」を優先して選択した30の A1 Can-do に、A2.1のシラバスから「1年生のときに教えてほしい」8つの Can-do を加え、最後にまとめ活動を取り入れた。

② Can-do の内容と流れの確認

SHC の教師にとって、シラバスの Can-do の順番を決めることは難しかった。つまり、順番に関係なく学習できる Can-do とそうでない Can-do があった。それは、既習した言語項目に深い関係がある。例えば、「日本人の知り合いとメールで待ち合わせの場所と時間を決める」という A2.1の Can-do を達成するために、「時間を言える／聞ける」の Can-do も必要である。しかし、それは別な Can-do として習ってもいいと考えた。または、学習者にとって、「日にちを言える／聞ける」Can-do も必要であるが、出来るようになるまでに時間がかかる。そのようにシラバスの A1 の Can-do の授業を振りかえり、Can-do の内容と順番を考えた。

③ 学習者のニーズに応え、A2 Can-do を取り入れる

「メールで日本人とやり取りしたい」、「日本語のサイトを読みたい」というニーズが強く、インターネット上の日本語使用も望ましいことである。このようなニーズに応えられるように、1年生のコースブックに「メール文化」、「日本のインターネット」を取り入れた。

4.2 コースブックの構成とストーリー

コースブックは全20課構成で、それぞれ一つのストーリーでまとめられている。ストーリーの主人公は西山先生という人物であり、神奈川県からロシアの大学付属日本語センターに来て、ロシア人のアンナ先生と一緒に一般人向けコースで日本語を教えているという設定である。他に、実際の学習者をモデルに描かれた登場人物（高校生、プログラマー、主婦、空手をやっている人物）も設けた。各課ではロシアの学習者にとって実現性の高い場面を設定し、その場面に相応しいCan-doを学習目標にし、Can-do達成に必要な文型及び語彙を決定した。

コースブックの構成は資料1を参照されたい。

4.3 ガニエ理論に基づいた課の構成

コースブック執筆開始にあたって、初めに問題になったのは課の構成をどうするか、ということだった。SHCの新コースでは、「Can-doを目標とし、それを明確に提示すること」「取り組み後に自己評価とフィードバックを取り入れること」、「習ったことを実生活で使用してみる」が従来のコースにはなかった新しい視点である。市販の日本語教科書及び外国語教科書を分析し、『教材開発』（国際交流基金日本語教授法シリーズ2008）なども参照した結果、e-learning教材設計にも用いられている、R.Gagneの9教授事象理論に沿うことが新Can-doシラバスに適すると考えた。ガニエ理論では、従来型の語彙学習・文型練習に上述の新視点を加えて体系的に教材設計することが可能である。

以下の表のガニエの9教授事象（左）を、日本語学習者や指導者に合わせて具体的な表現に言い換え（中央）、これを各課の構成要素とした。

表5 ガニエの9教授事象を下敷きにした課の構成

No.	ガニエの9教授事象	「どうぞよろしく」 課の段階	内容
1	学習者の注意を獲得する	イントロダクション	課のテーマと目標 Can-do に関する日本事情を写真で提示。
2	授業の目標を知らせる	今日の Can-do	Can-do の提示。
3	前提条件を思い出させる	知っていますか？	既習事項を用いたタスクを通し、今できることとできないことへの気づきを促す。

4	新しい事項を提示する	モデル会話 または モデルテキスト	ロシアの学習者が実際に遭遇する日本人とのコミュニケーション場面を想定し、既習語彙や文型に囚われない自然な会話スタイルを提示。「必要なことがわかる」を目標に大意把握又は情報検索タスクを与える。
5	学習の指針を与える	理解確認・表現	目標達成に必要な新出語彙と文型の説明。
6	練習の機会を作る	練習しましょう	文型・聞き取り・ペア会話など5-10種のタスク。
7	フィードバックを与える	できましたか？	目標 Can-do の達成を確認する総合タスク。
8	学習の成果を評価する	評価しましょう	7について、自己評価またはペア評価を4段階で行う。その際「復習したいこと」を自覚させる。また教師からの評価・コメント欄も設けた。
9	保持と転移を高める	やってみましょう	課で学習した内容を工夫すれば達成できる、より高度なタスクを与え、学習の定着と運用能力の向上を図る。

なお、実際の教材構成については資料2を参照されたい。

4.4 Can-do コースの評価から考えたコースブックのポイント

Can-do を目標とした授業を実施しながら、従来の文型を中心としたシラバスの授業と比べ、学習者の反応、教師の意見を聞き、学習に効果的であったものを以下のメインポイントとしてまとめて、コースブックに取り入れた。

1) 日本事情をふんだんに提供する

日本滞在の経験のない学習者にとって、これが学習のいちばんの動機付けとなったと評価された。コースブックでは、イントロダクションに日本の世論調査結果、社会的な現象などの最新情報を取り上げる。モデルテキストでは、日本人が書いた文書やメールを使う。「できましたか」と「やってみましょう」の段階では、実物（お菓子、道具、チラシなど）を使ってロールプレイを行うなど、それぞれの段階で、日本事情を様々な形で学習者に教える。

2) 「今日の Can-do」で、課ごとの目標を知らせる

授業の目標（言語活動 Can-do）を学習者に知らせることで、授業のゴールを明確に理解し、達成できたかどうか自分自身で確認出来る。また、授業目標の達成度が客観的に評価できる。学習者は授業の目標を意識しながら、「できましたか」の段階で、実際のコミュニケーションに近い場で習ったことを応用してみる。「評価しましょう」という段階では、課の目標をどの程度達成できたか自己評価または相互評価を行う。

3) 学習者自身の気付きを促すタスクの採用

「モデルテキスト」という段階では、新しい文型を導入し、翻訳のタスクの代わりに、意味理解のタスクを出す。それは学習者の新しい文法の理解のために助け舟になり、言語項目に学習者の注目を喚起する。コースの実践中、学習者からは「文法は自力で理解できる」という喜

びの反応があった。ただし文法は教師が丁寧にロシア語で文法を説明するべきだというピリーフを持ち、ロシア語での説明を要求している学習者もいた。そのため「理解確認」の段階では、文型を取り上げて、文法を説明する文例を入れた。

4) ロシアの学習者が実際に遭遇する日本語使用場面を設定

「SHC の交流会で」、「姉妹都市訪問団の日本人がホームパーティーに来たとき」など学習者が実際に遭遇する日本語使用場面の設定は、教室で習ったことが直ぐに使えるという実用性で、学習への動機付けにつながった。コースブックでは、ロシア国内の「教室の中」、「スーパ－」、「ホームパーティー」、「インターネット上のメール」などを場面に、登場人物にも日本語の先生、日本から来た留学生、姉妹都市に住んでいる学生、Facebook で知り合った日本人など最も起こりうる場面で交流できる相手を考えた。このように場面と相手を具体化することで、学習者にとって学習する言語項目が絞られ、実際のコミュニケーションのヒントになる。

5) ペア活動とグループ活動を多く取り入れる

1 年間行った Can-do を目標とした授業では、ペア活動とグループ活動をよく取り入れた。そのようなグループ活動は、Can-do を達成するために効果的であったという声が多くあった。コースブックでは「できましたか」(Can-do 活動)の部分に、グループかペアでの活動を取り入れた。

6) ストラテジーを育てる練習の利用

初級の学習者にとって、ストラテジーを意識させ、うまく使わせることは大切である。CEFR には、A1 レベルのストラテジーは11あり、すべて SHC のシラバスに入っている。教師が学習者にそのストラテジーを意識させることで、「難しいタスクもできた」という反応があった。コースブックでは、ストラテジーを教えるとともに、例えば、「日本語のインターネットで情報を探せる」という Can-do を目標として、スキミング及びスキニングの読解ストラテジーを応用できるタスクを与えるなど、ストラテジーを育てる練習を多く取り入れているなどしている。

7) 自己評価だけではなく、教師のコメント欄も取り入れる

JF スタンド－ドでは、自己評価と相互評価が重視されている。SHC の日本語コースの場合、自分で言語学習過程をコントロールすることは、従来になかった新しい考え方である。しかし、学習者のアンケートによると、「教師の評価のほうが客観的であり、教師から評価してほしい」という意見がかなりあった。そのためコースブックには、自己評価だけではなく、教師のコメント欄を取り入れた。

表6 評価表 例

ПРОВЕРИМ, ЧТО ПОЛУЧИЛОСЬ! 評価しましょう

★ Подумайте, что у Вас получилось хорошо, а что было трудным. Обсудите это с теми, кто работал с Вами в паре, и заполните оценочную таблицу
よく出来たことと難しかったことについて考えてください。ペアの人と話しあってください。

Компетенция урока 今日の Can-do	Не получилось 出来なかつた	Получилось, но было трудно 少し出来た	Получилось 出来た	Получилось очень хорошо よく出来た
Я могу спросить время. 時間が聞ける。				
Я могу понять ответ на вопрос о времени. 言われた時間が理解できる。				
Я могу назвать день недели. 曜日が言える。				
Надо повторить дома: 復習したいこと：	Оценка и комментарии преподавателя 教師の評価とコメント			

4.5 コースブックに関する教師と学習者の反応

2011年11月から2012年3月にかけて、報告者はシベリア各地でコースブックのワークショップを行い、コースブックを使って模擬授業を実施し、その内容と方法について学習者と教師と意見交換をした。その評価を以下にまとめる。

① 教師による反応：

- ・課の構成が分かりやすい、工夫しなくてもすぐに授業が出来る

ワークショップでは、言語活動 Can-do を取り入れようとしても、「授業をどのように設計すれば良いか」、「文型を中心とした授業との違いは何だろうか」という指導法と教授法に関する質問が教師からたくさん出た。このような教師の質問に応えるために、コースブック開発では、課の構成を分かりやすくし、教師の負担を減らす必要性がある。さらに、教師の希望に応じて、副教材や自作教材の使用も可能にした。

セミナー参加者の感想：「コースブックは、カラフルで、課題や練習が多い。そして、課の構成はしっかりされているので、とても使いやすいと思う」（ノボシビルスク市、NNT）

- ・学習の持続を支え、動機付けができる

日本への興味を高めることによって、学習の持続を支え、学習への動機付けができると考えられる。その学習動機付けのために、教師たちは、日本事情の項目、日本人が描いたイラスト、写真などを高く評価した。また一課の最後に「やってみましょう」を取り入れ、学習者に日本語使用のヒントを与えたことにも注目が集まった。

セミナー参加者の感想：「私の学習者にとって、日本事情と日本文化が一番興味深いものである。したがって、イントロダクションに日本事情の項目、日本人の見方を伝える日本人の画家が描いたイラスト、写真を取り入れたことは非常にいい」（クラスノヤルスク市、NNT）

「学習者が勉強した内容を直ぐに使えることは、Can-do 達成感を与えられる。」（トムスク市、NNT）

- ・「気づき」の能力を育てられる

このコースブック以前、「教師が説明し、学習者がその説明を聞く」という受動的な学習では、学習者が自ら気づく、あるいは学習者の気づきを促すということは殆どなかった。Can-do 授業では、学習者自身の「気づき」は目標を達成するために大事なことであり、従って学習者に考えさせ、自分で答えを見つけ出させる活動が多くなった。しかし、授業担当教師によると、自分で気づこうとせずに、教師の説明を待っている人が少なくないという。学習者の「気づき」の能力を高めるため、コースブックに、「ロシアと比較して、話し合ってください」、「どうしてか、ペアで考えてください」などの考えさせるタスクがあるのは効果的であるという意見が出た。

② 学習者による反応：

- ・日本語使用を支えてくれる

従来の教科書では、「簡単なものから複雑なものへ」という学習方法に従って、モデル会話を簡単にして、使われた語彙や文型を100%理解させてから実際の使用に結びつけるという方針があった。この方法では、実際に日本語が使用できるようになるまで長い時間がかかるが、学習者はその日勉強した日本語を直ぐに使ってみたい気持ちが強い。また学習者の遭遇する現実のコミュニケーションの場では、日本人の話が100%わかる、日本語で書いてあることがすべてわかるというのはありえない。コースブックの「全部分からなくても日本語を使える」という新しい考え方は、このような学習者の気持ちやニーズに基づく日本語使用を促し支えるものとなるを考える。

- ・文型の説明が書いてあり、分かりやすい

ロシア語の説明になれた学習者にとって、文法項目は従来のように教師から丁寧な説明があるのが望ましいものであるとわかった。コースブックの「理解確認」で Can-do に必要な文型をロシア語で説明したことは、学習者に安心感を与えたようである。

セミナー参加者の感想：「Can-do を目標とした授業では、教師にもっと文型を説明していただきたかった。しかし、教科書を見たら、文法の説明がロシア語であって、とてもよかった」（ノボシビルスク市、大学生）

5. 今後の課題

本稿では新しいコースブック開発について報告したが、今後の課題として、以下が挙げられる。

- 1) 試用版の見直しと改善…開発したコースブックの試用版を使ってコースを実施し、学習者と教師による評価を行い、改訂する。
- 2) 追加教材の開発…このコースブックではコミュニケーション能力の育成を重視し、本冊上で文字学習を扱っていない。文字については授業担当教師がその課で扱われる語彙を用いて適宜指導することとした。しかし、一年間言語活動 Can-do シラバスのコースを実施し学習評価を行った結果、この方法では学習者にとって漢字を覚えることが難しかったことが明らかになった。そこで、追加教材の漢字学習ノートを開発し、コミュニケーション上の読む・書く活動とつなげた漢字の練習を授業に取り入れる。また、学習目標を達成できたかどうか、学習者の自己評価だけで判断することは難しい。教師による客観的な評価（テスト）が必要であると判断し、テストを開発する。また日本文化理解を深めるために、日本事情教材の開発も行う。
- 3) 教師マニュアルの作成…ロシアの教師にとって、言語活動 Can-do を目標とする学習過程は、まだ新しいアプローチである。教師の理解と知識を深めるために、新しいコースブックの紹介セミナーを開き、反応を分析して教師のマニュアルを作成する。

〔注〕

^①2011年11月トムスク教育大学、2011年12月シベリア連邦大学（クラスノヤルスク）、2012年3月イルクーツク言語大学、2012年3月第4回シベリア日本語教育シンポジウム。

^②文法をしっかりと教え、翻訳に力を入れる。会話モデル文も翻訳教材として扱われることが多い。

〔参考文献〕

来嶋洋美・柴原智代・八田直美（2012）「JF スタンダード準拠コースブックの開発」『日本語教育紀要』第8号、103-117

国際交流基金（2010）『JF 日本語教育スタンダード2010—利用者ガイドブック—』国際交流基金

国際交流基金日本語教授法シリーズ（2008）『教材開発』

財団法人 日本放送教育協会『第3章 授業のねらいを分類する枠組み』

<<http://www.gsis.kumamoto-u.ac.jp/ksuzuki/resume/books/1995rtv/rtv03.html#2>>

鈴木克明（1995）『放送利用からの授業デザイナー入門～若い先生へのメッセージ～』

プーリク、イリーナ（2010）「一般成人向けの日本語コースデザインの改善—ノボシビルスク市立「シベリア・北海道文化センター」の場合—」『日本言語文化研究会論集』第6号、国際交流基金日本語国際センター、政策研究大学院大学、73-100

プーリク、イリーナ（2010）「シベリア北海道文化センター日本語コースの改善の試み—JF 日本語教育ス

ロシア一般人向け日本語コース用初級コースブック『どうぞよろしくⅠ』開発報告

タンダードの導入と学習者・教師の反応」『日本語教育通信』、海外日本語教育レポート第25回、国際交流基金

<<http://www.jpf.go.jp/j/japanese/survey/tsushin/report/index.htm>>

資料1 コースブックの構成

No.	Can-do	言語項目
第1課 挨拶	簡単な挨拶を言える。 日本人の知り合いに簡単な自己紹介ができる。 先生の指示がわかる。	挨拶の言葉 // 自己紹介の仕方 // 先生の指示の言葉 (読んでください)
第2課 自己紹介	自分の趣味について簡単に話せる。 人の趣味について聞くことができる。	名詞文(～は～です) // 疑問文の作り方 // 名詞+ができます/できません
第3課 名刺	名刺に書いてある主な情報を理解できる。 日本人の名前をひらがなで書ける。	ひらがなの読み方
第4課 電話番号	知り合いに電話番号を聞いて、答えを理解できる。 自分の電話番号が言える。 数字の漢字が書ける/読める	数字と数え方
第5課 カレンダー	日付を言える。 様々な行事が何月何日にあるか聞いて、答えを理解できる。 漢字で書かれた日にちを理解できる。	疑問詞「何日、何月、いつ」 // 日付の言い方
第6課 誕生日	自分の誕生日と年齢を言える。 知り合いに誕生日と年齢を聞いて、答えを理解できる。	年齢の言い方(何歳ですか):～歳
第7課 カード	誕生日のお祝いのメッセージを書ける。 誕生日のお祝いのメッセージを読める。	お祝いの文の表現:～さんへ;～より;おめでとうございます;～を祈ります;いつものように～いてください;～を込めて。
第8課 ご馳走	日本人の知り合いにお茶やお菓子を勧められる。 相手からお茶やお菓子などを頂いた時に簡単なお礼が言える。	疑問詞「いかが」 // ～はいりますか。 // もう結構です // 語彙:食べ物、飲み物、食器
第9課 私のもの	自分のものかどうか、言える。 日本人の知り合いにだれのものか聞いて、答えを理解できる。	助詞「の」 // 疑問詞「だれ」(だれのですか) // これ・それ・あれ
第10課 好きな料理	好きな料理について簡単に話せる。 知り合いに好きな料理を聞ける。そして、答えを理解できる。	～がすきです/すきではありません/嫌いです // 程度を表す副詞(とても、あまり、ぜんぜん) // 頻度を表す副詞「よく」
第11課 私の町	自分の町の写真(名所、名物)にコメントが書ける。	「～に～があります」 // い形容詞の活用(非過去) / / い形容詞の接続(「～くて、～」)
第12課 スケジュール	時間を言える。	～時:～分:～曜日 // 疑問詞「何時」 // 助詞「に」、「から」、「まで」
第13課 買い物	日本人の知り合いがロシアのスーパーで買い物をする時、手伝う。	ここ・そこ・あそこ;この・その・あの // 疑問詞「どこ」、「いくら」 // 数詞と数え方
第14課 私の一日	日本人の知り合いと一日の流れについてやり取りができる。	動詞の活用(非過去) // 助詞「を」、「で」 // 疑問詞「何」 // 時間の表す言葉:毎日、普通、時々 // それから・そして・それで
第15課 日本人の一日	外国人向けに書かれた日本人の日常生活についての簡単な記事を読める。 意味をだいたい理解できる。	日常生活の語彙 // 読解のストラテジー
第16課 家族	自分の家族を簡単に紹介できる。 知り合いに家族について簡単に聞ける。	家族に関する語彙 // 人の性格に関する語彙 // 格好に関する語彙 // 動詞と名詞の活用(過去) // 「～は～が形容詞」
第17課 旅行	自分の旅行について簡単に感想などが話せる。 日本人の知り合いに日本の旅行について質問できる。	い形容詞の活用(過去) // 動詞での形 // 場所+「に」、「で」 // ～間 // ～は～ぐらいかかります // 乗り物に関する言葉
第18課 将来やりたいこと	自分の今の仕事(勉強)と将来にやりたい仕事について、簡単に話せる。 日本人に仕事(将来やりたいこと)について聞ける。	「～たいです」 // 動詞+「になります」 // 動詞う/る+前に // 名詞+に興味があります。
第19課 メール文化	日本人にメールが書ける。	メールを始める文/終わらせる文 // 申し訳ない気持ちを伝える文 // 誘いと依頼の書き方 // 名詞+「に」:誰に
第20課 日本インターネット	日本の興味のあることについてインターネットで調べる。	インターネットに関する言葉 // 読解のストラテジー(意味推測、スキミング、スキニング)
まとめ活動	交流会をやしましょう(プロジェクトのアウトライン作成)	

資料 2-① 課の構成例

図1 イントロダクション

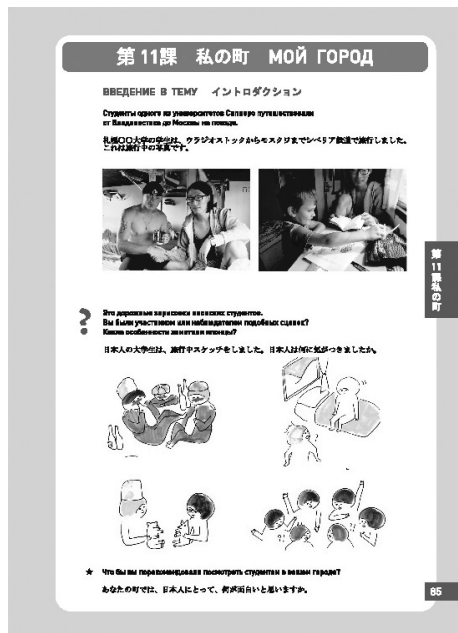


図2 今日の can-do/知っていますか？

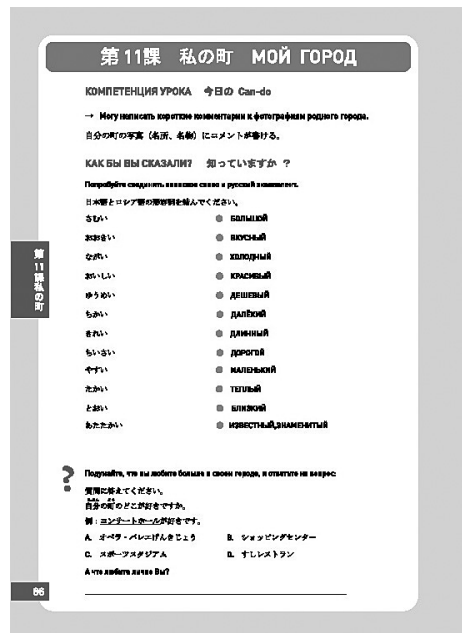
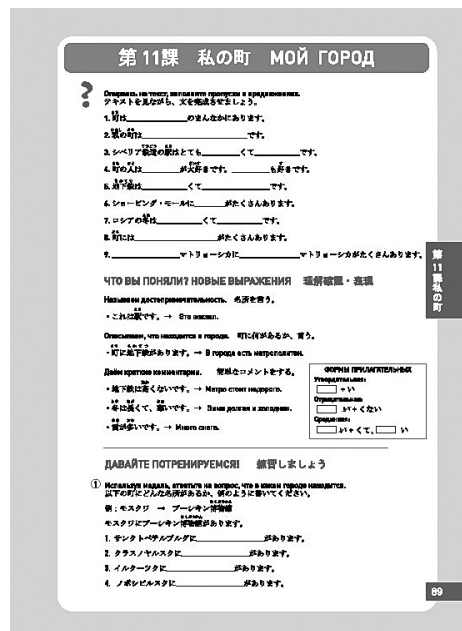


図3 モデル会話／モデルテキスト



図4 理解確認・表現



資料2-② 課の構成例

図5 練習しましょう

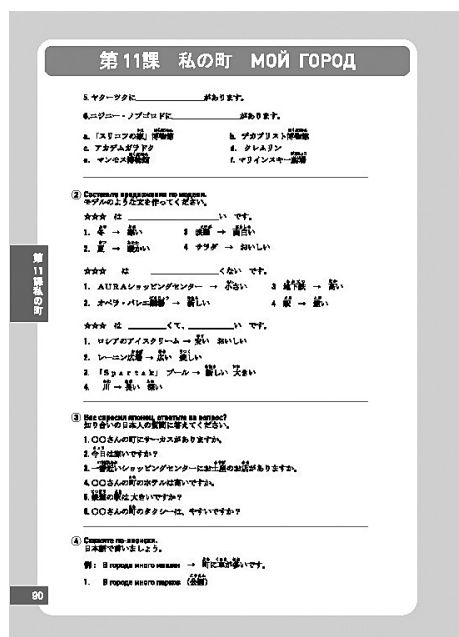


図6 できましたか／評価しましょう

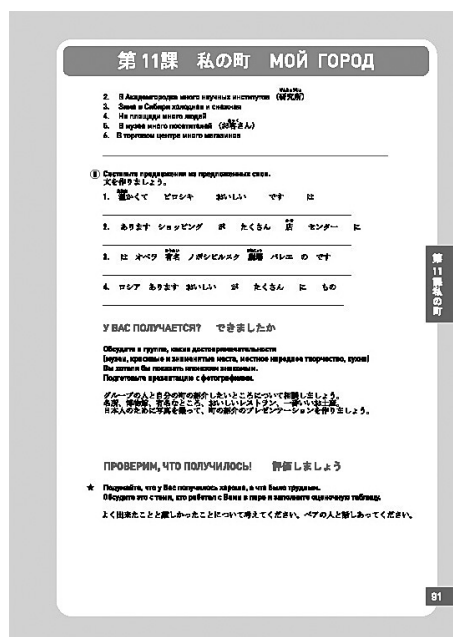


図7 やってみましょう

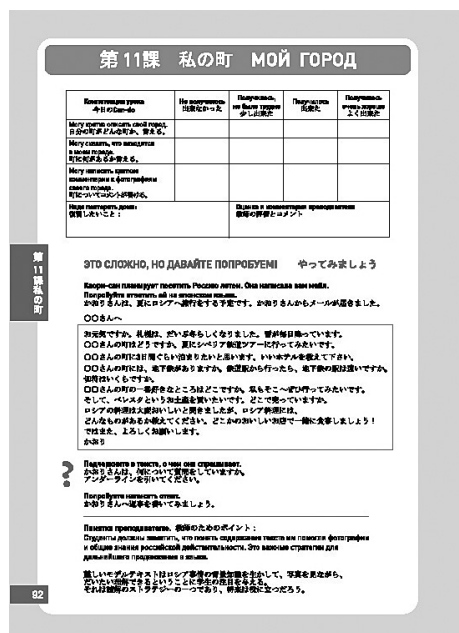


図8 コースブック『どうぞよろしく』体裁

